

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月21日午前 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S22 (農学部)
開始時刻	S4 林業はどこでやる	S9 竹林の価値創出	T1 生物多様性保全	S3 降雪地の森林管理	T3 デジタルツイン
9:00	S4-1 林地生産力評価方法の変遷と課題：寺岡行雄（鹿児島大学）	S9-1 日本のタケ類とその生態的特性：小林慧人（森林総合研究所）	趣旨説明	S3-1 高解像度地域気候モデルを用いた地球温暖化の日本の降雪・積雪への影響評価：川瀬宏明（気象庁気象研究所）	T3-1 フォワードの自動走行マルチオペレーション技術の開発：中澤昌彦（森林総合研究所）ら
9:15	S4-2 地域におけるスギ樹高成長予測に基づくゾーニング：中尾勝洋（森林総合研究所）ら	S9-2 竹林の弾発性有機化合物放出—竹林管理と気候変動における大気質への影響：張庭維（国立台湾大学）	T1-1 マツ材線虫病による絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの衰退：金谷整一（森林総合研究所九州支所）ら	S3-2 北海道における積雪・融雪量の地球温暖化による変化：勝山祐太（森林総合研究所）	T3-2 山地災害の被災状況をデジタルツイン化する技術開発：秋田寛己（国立研究開発法人防災科学技術研究所）ら
9:30	S4-3 スギ挿木品種の葉の機能形質の可塑性と攪乱に対する成長反応：榎木勉（九州大学）ら	S9-3 竹林の発揮してきた文化機能：岩松文代（北九州市立大学）	T1-2 樹種ごとの樹冠直上でのrPPFDの違いが成長に及ぼす影響：谷口真吾（琉球大学）	S3-3 暖地積雪地帯における森林の貯雪・融雪遅延機能の評価：藤原洋一（石川県立大学）ら	T3-3 UAVによる森林施業竣工検査の効率化：大槻峻介（名古屋大学）ら
9:45	S4-4 成長に優れたスギ系統を植えるかどうか育つ？-林業採算性評価のための取組み-：松下通也（森林総合研究所）ら	S9-4 ライフサイクルアセスメントから見える竹材利用の温室効果ガス削減の可能性：井上岳（東京農工大学大学院）	T1-3 温帯二次林における甲虫群集の垂直層構造とその季節変化：吉田智弘（東京農工大学）ら	S3-4 融雪期の水流出に対する伐採影響の長期的変化—釜淵森林理水試験地の事例—：阿部俊夫（森林総合研究所）ら	T3-4 ハンドヘルド型LiDARによる森林計測 ～現状と課題～：瀧誠志郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
10:00	S4-5 木材生産技術から見た生産適地判定における課題：齋藤仁志（岩手大学）	S9-5 日本の竹林における炭素蓄積量の推移の推定：井上昭夫（近畿大学）ら 発表取消	T1-4 生態系修復型の広葉樹林業に向けた森林環境調査—地表徘徊性甲虫を対象に：時任美乃理（京都大学）ら		討論・調整
10:15	S4-6 GISシミュレーションによる路網作設・集材搬出適地の選定：白澤紘明（森林総合研究所）		T1-5 樹種混植は樹木の生存率を高めるか？～樹木多様性操作実験の初期結果より～：齋藤大（東京大学）ら		T3-5 林分スケールのデジタルツインへ：個体ベースモデルで挑む可能性と課題：佐藤永（海洋研究開発機構）
10:30			T1-6 市民調査による葉面DNAの解析—飛騨市の広葉樹林を事例に—：浅野悟史（京都大学）ら		T3-6 立木段階における原木の質的データ推定の試み：原田喜一（京都府立大学大学院）ら
10:45			T1-7 北海道根釧地域の格子状防風林の管理と絶滅危惧種・生物多様性保全の両立：速水得人（北海道立総合研究機構 林業試験場）ら		T3-7 森林の3次元データの利用目的とその精度について：高橋與明（森林総合研究所九州支所）
11:00			T1-8 水源林造成事業地における保持林業の取組（事例報告）：山台英太郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	待用林産	討論・調整
11:15			T1-9 森林整備活動が水源涵養機能に与える影響の簡易評価の試み：霜山峻（八千代エンジニアリング株式会社）ら	N-1 マツタケ山造成施業後の子実体発生 —施業6年後の報告—：古川仁（長野県林業総合センター）ら	T5 森林の放射能
11:30			T1-10 森林の審美的価値に林齢と林相が与える影響：山中聡（森林総合研究所）ら	N-2 クロモジの生育に適した光環境の検討：高橋輝昌（千葉大学）ら	ポスター紹介
11:45			討論・調整	討論・調整	
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午前 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)
開始時刻	S6 生理部門シンポ	造林 1	経営 1	T4 樹木根	林政 1
9:00	S6-1 電子顕微鏡を用いた冬芽の越冬メカニズムの研究：遠藤圭太 (森林総合研究所林木育種センター)	E-1 カラマツコンテナ苗の実用的な育苗密度：二本松裕太 (長野県林業総合センター) ら	D-1 カラマツ類優良苗植栽による気候変動下での収穫量予測：滝谷美香 (道総研林業試験場) ら	T4-1 解剖構造に着目した細根寿命の探求：針葉樹種における原生木部数の季節変化：細井彩 (信州大学大学院) ら	A-1 都道府県による指定管理鳥獣捕獲等事業の現局面：古賀達也 (森林総合研究所) ら
9:15	S6-2 春にブドウの冬芽はどのように耐寒性を失うのか：春日純 (帯広畜産大学)	E-2 人工光と自然光のハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の育成：下山真人 (株式会社大林組) ら	D-2 NFIデータに基づく全国スケールの森林成長予測：辰巳晋一 (京都大学) ら	T4-2 アジア3地域の森林における樹木の吸水深度特性：勝浦柊 (名古屋大学大学院) ら	A-2 文化的FESのビジネス化 - レンタルフォレスト利用者の実態など：柴田晋吾 (東北農林専門職大学) ら
9:30	S6-3 亜高山帯で生きる常緑針葉樹の越冬戦略：種子田春彦 (東京大学) ら	E-3 シカ高密度生息域で忌避剤散布による食害防止対策を実施した事例：柴田寛 (鳥取県林業試験場)	D-3 炭素固定量予測式の妥当性の検証 - 海外活動のカーボンオフセットのために -：菅沼秀樹 (東北農林専門職大学) ら	T4-3 椎樹の根圏炭素消費を規定する要因は何か？：温室苗木実験で分かったこと：寺井水萌 (東京農業大学) ら	A-3 Current Utilization of Geographical Indications Wild Fungi Industry in Yunnan, China: A Case Study in Mushrooms：李欣陽 (東京大学) ら
9:45		討論・調整	D-4 スギ・ヒノキ人工林の再造林を対象としたカーボンクレジット評価手法の検討：佐藤惟生 (東京農工大学) ら	討論・調整	A-4 千葉県草川原用水の維持管理の変遷：川上健 (東京大学) ら
10:00		教育 1	D-5 Sensitivity analysis of a growth simulation model for Dipterocarp plantation in Malaysia：マンダルモハマドシャミムハサン (国際農林水産業研究センター) ら	T4-4 Influence of masting on resource dynamics in fine roots of <i>Fagus crenata</i> individuals identified using molecular markers：韓慶民 (国立研究開発法人森林研究・整備機構)	A-5 阿蘇における牧野組合の動向 - 牧野組合現況調査を中心として -：八巻一成 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
10:15	C-1 ケニア社会林業プロジェクトの歩みと教育効果の検証：申山祐志 (岡山理科大学) ら 発表取消	討論・調整	討論・調整	T4-5 スキャナー法によるモウソウチク林の根系動態の解析と撮影地点数の影響評価：遠藤いず貴 (兵庫県立大学)	討論・調整
10:30	C-2 ドイツにおける森林認識の変化：寺下太郎 (愛媛大学)	D-6 2時期の航空レーザ計測から作成したDCHMの差分による樹高成長量評価：大矢信次郎 (長野県林業総合センター)	T4-6 植栽後 6 年のクロマツコンテナ苗の根系とその強度：藤田早紀 (森林総合研究所)	A-6 長期滞在型観光の拡大の可能性：屋久島における長期滞在客の特性に着目して：柴崎茂光 (東京大学) ら	
10:45	C-3 世界遺産の森を守り活かすための多面的な教育アプローチ：大島順子 (国立大学法人 琉球大学) ら	D-7 地位指数モデル開発における過去空中写真DSM利用の効果：光田靖 (宮崎大学)	討論・調整	A-7 林学における「樹芸」概念の特徴と変遷：齋藤暖生 (東京大学)	
11:00		討論・調整	D-8 新潟県における航空レーザ計測データを用いた地位指数曲線作成の試み：村上拓彦 (新潟大学) ら	T4-7 ヒノキ人工林内に生育するヤブムラサキの水平根引き抜き試験：橋隆一 (東京農業大学) ら	A-8 ボランティア団体が行う半自然草原の保全に向けたニホンジカ被害対策：小山泰弘 (長野県林業総合センター) ら
11:15	C-4 日本全国における森のようちえんの活動環境の把握：島村琉太 (東京農工大学) ら	D-9 広域スケールにおける森林指標を考慮した流域環境の評価：北野陽大 (京都府立大学大学院) ら	T4-8 幹周囲の根がもたらす土壌崩壊防止力の樹種間の比較：藤井吉佳 (兵庫県立大学) ら	A-9 住民が森林に求める機能の重みづけ-AHP法を活用して -：垂水亜紀 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所) ら	
11:30	C-5 幼児キャンプでの樹木と子どものかわり：遠藤知里 (常葉大学短期大学部)	D-10 森林域と水域の統合的解析を志向した衛星ライダー点群からの浅水域深度推定：名倉篤徳 (千葉大学) ら	T4-9 コナラ萌芽再生個体の土壌補強強度は、伐採後何年まで減少するのか？：藤堂千景 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)	A-10 岩手県久慈地方におけるアカマツ林の施業と植物の多様性：古市智紀 (京都大学大学院) ら	
11:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00	学会企画 1				
12:15	ランチョンミーティング「選択的夫婦別姓制度の必要性を考える」※12:00開始				
12:30					
12:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午後 1/2

会場	W109	S12	N11	N13	S22
開始時刻	（総合研究棟）	（農学部）	（農学部）	（農学部）	（農学部）
13:00	ポスター発表の質疑応答 （対面会場）				
13:15					
13:30					
13:45					
14:00	S7 大気森林生理生態	S2 ホバイ供給拡大	S1 保持林業	T2 森林の保健休養	T6 ネットゼロ森林
14:15	S7-1 常緑針葉樹のシュートおよび針葉レベルの光合成から針葉の長寿命を考える：北尾光俊（森林総合研究所）ら	S2-1 木質バイオマス供給の現状と課題：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	S1-1 保持林業実証実験が北海道有林で実施された経緯について：土屋慎治（北海道立北の森づくり専門学院）	T2-1 高齢者による風景の注意回復評価：尾崎勝彦（びわこリハビリテーション専門職大学）ら	T6-1 高分解能炭素シミュレータを用いた森林伐採シナリオによる森林の変化推定：小南裕志（森林総合研究所）ら
14:30	S7-2 スギとヒノキの異なる樹冠位置における針葉の光合成窒素利用特性：渡辺誠（東京農工大学）ら	S2-2 早成樹によるバイオマス生産時の炭素負債問題：相川高信（PwCコンサルティング合同会社）	S1-2 保持林業実証実験の概要と主要な結果：尾崎研一（森林総合研究所）	T2-2 アカエゾマツ精油エマルジョンの温泉施設における抗菌消臭効果：高見菜月（酪農学園大学）ら	T6-2 日本の森林の二酸化炭素吸収機能の評価に向けた地理空間情報の活用：平田晶子（森林総合研究所）ら
14:45	S7-3 光量と葉のガス交換能力の樹冠内鉛直分布がスギのオゾン吸収量に与える影響：田中亮志（東京農工大学）ら	S2-3 早生樹林業のためのキリの成長および材質の評価：石栗太（宇都宮大学）ら	S1-3 保持林業実証実験で残された樹木の動態：明石信廣（北海道立総合研究機構）ら	T2-3 子どもに対する森林散策の効果に関する研究：狩谷明美（大阪歯科大学）ら	T6-3 グローバルな森林炭素収支の推定について：伊藤昭彦（東京大学）ら
15:00	S7-4 野外長期オゾン暴露環境におけるヤマナラシ属2種の成長とBVOC放出：増井昇（静岡県立大学）ら	S2-4 千葉県におけるNEDO早生樹事業でのユーカリ等造林の成果と課題：富山啓介（岩手大学）ら	S1-4 保持林業の機会費用を最小にする保持木配置の評価：津田高明（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構）ら	T2-4 地域の森林を活用した社会福祉施設の活動による「森福連携」の事例：上原巖（東京農業大学）	T6-4 高解像度衛星画像を使ったスギ花粉の発生源および発生量推定システムの開発：中村裕幸（株式会社woodinfo）
15:15	S7-5 FACE実験から推察した高CO2環境での森林のメタン消費機能の維持：小池孝良（北海道大学）	S2-5 ヤナギ超短伐期施業による木質バイオマス生産に向けた研究開発の現状と課題：高橋正義（森林総合研究所）ら	S1-5 保持林業を現場で請け負って：高篠和憲（堀川林業株式会社）ら	討論・調整	討論・調整
15:30	S7-6 樹木の放射吸収特性の違いが気候安定化に寄与する可能性：久米篤（九州大学）ら	S2-6 NEDO「エネルギーの森事業」の概要と課題：矢野貴久（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）	S1-6 北海道社所有林で保持林業を実践して：高森淳（三井物産フォレスト株式会社）		T6-5 全国の地上部バイオマス推定に向けた成長モデルの検討：北原文章（森林総合研究所）ら
15:45	S7-7 太陽光誘発クロロフィル蛍光による生態系光合成の観測とモデル化：加藤知道（北海道大学）	S2-7 九州におけるFIT制度下での木質バイオマス発電への燃料供給：佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）	S1-7 九州・四国での保持林業：保持木の種組成とサイズから可能性と課題を考える：山川博美（森林総合研究所九州支所）ら		T6-6 フラックスタワー下のヒノキ林における積み上げ法による炭素収支の推定：佐藤薫（京都大学）ら
16:00		S2-8 高知県および四国地域における木質バイオマス利用と供給の現状と課題：鈴木保志（高知大学）	S1-8 日本における保持林業の今後の展開に向けて：山浦悠一（森林総合研究所）		T6-7 森林管理シミュレーターを用いた枯死木・リター・土壌炭素量の予測手法構築：酒井寿夫（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
16:15				討論・調整	
16:30					T6-8 民有林における伐採傾向と地理・社会的要因の関係性に関する分析：山田祐亮（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
16:45					T6-9 日本の森林吸収源対策のロジックの整理：江原誠（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら
17:00					T6-10 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計に向けた建築物の寿命関数と半減期の推定：三條瑚都子（東京農工大学大学院）ら
17:15				学会企画 3	T6-11 木材フローと素材生産量に基づくHWPの炭素貯蔵量の推計：森井拓哉（森林総合研究所）ら
17:30				JFRのData Noteに投稿しよう！	T6-12 林分と伐採木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素吸排出量評価：岡裕泰（森林総合研究所）
17:45					討論・調整
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午後 2/2

会場	N21	N23	S32	N31	大講堂
開始時間	（農学部）	（農学部）	（農学部）	（農学部）	（農学部）
13:00	ポスター発表の質疑応答 （対面会場）				
13:15					
13:30					
13:45					
14:00	T5 森林の放射能	S5 森林サービス産業	経営 2		林政 2
14:15	T5-1 森林源流域からの溶存態Cs-137流出と斜面地下水の影響：加藤弘亮（筑波大学）ら	S5-1 森林サービス産業の事業経営における現状と課題：矢島万理（公益社団法人 国土緑化推進機構）	D-11 目視判読によって伐採リファレンスデータはどの程度ばらつくのか？：志水克人（森林総合研究所）ら		A-11 森林と人々の隔たりの要因を探る：都市部と山村部でのアンケート結果の比較：高橋卓也（滋賀県立大学）ら
14:30	T5-2 森林源流域において落葉除去が水質及び ¹³⁷ Cs流出に及ぼす影響：永田祐太郎（筑波大学）ら	S5-2 森林訪問を促す地理情報提供の重要性：松浦俊也（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）	D-12 海岸防災林におけるYOLOv5によるマツ枯れ被害木の検出：小林裕之（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）ら		A-12 移住者の人的ネットワーク形成に定住者が果たす役割：北海道下川町の事例：黒田峻平（北海道大学大学院）
14:45	T5-3 森林から溪流生態系への枯死葉を介した放射性セシウムの移行解明：金指努（福島大学）ら	S5-3 森林での体験活動と森林教育との関わり：井上真理子（森林総合研究所）ら	D-13 高分解能衛星データを用いた松枯れ被害木の把握：小澤和浩（精密林業計測株式会社）ら		A-13 退耕還林工程開始から20年間の自然環境と住民生活の変化：菊池貴純（東京大学）ら 発表取消
15:00	討論・調整	S5-4 森林の訪問利用に関する制度的課題：平原俊（東京農工大学大学院）	D-14 時系列航空およびUAV写真を用いた森林限界における植生変化抽出：米康充（島根大学）ら		A-14 山村への移住及び定着に至る過程－東京都檜原村を事例として－：伊藤千尋（東京大学）ら
15:15	T5-4 スギ林土壌中Cs-137空間的不均一性に対する選択流寄与と土壌理化学性の影響：三嶋駿介（筑波大学）ら		討論・調整		討論・調整
15:30	T5-5 スギとコナラの樹幹流による鉱質土壌中の可給態放射性セシウムの鉛直分布：今村直広（森林総合研究所）ら		D-15 間伐強度が異なるスギ人工林におけるマルチGNSSの位置精度検証：高岸且（株式会社バスコ）ら		A-15 2020年国勢調査を用いた世帯主・配偶者が林業に就業する世帯の分析：林宇一（宇都宮大学）ら
15:45	T5-6 畑跡地と二次林のコナラによる放射性セシウム吸収と細根：三浦寛（森林総合研究所）ら		D-16 樹木位置同定手法の提案：伊高静（東京理科大学）ら		A-16 林業労働者の退職理由についての考察：小菅良豪（にちなん中国山地林業アカデミー）
16:00	T5-7 共生する菌根菌がコナラ実生の放射性セシウム吸収に与える影響：小河澄香（森林総合研究所）ら		D-17 異なる立木幹利用材積推定方法の精度検証：辰暁（精密林業計測株式会社）ら		A-17 林業関連指標に基づく市町村類型と自伐型林業支援策との関係：多田忠義（農林水産省）ら
16:15	討論・調整		D-18 バックバック型LiDARとULSを用いた地形測量における下層植生の影響：諸橋佑星（京都大学大学院）ら		A-18 森林の生態系サービスに対する支払いの展開～ドイツの実情～：堀端人（東北農林専門職大学）
16:30	T5-8 植栽およびカリウム施肥開始から10年が経過したヒノキのセシウム137濃度：小松雅史（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら		討論・調整		討論・調整
16:45	T5-9 高線量地域を含む森林ための森林資源利用システムの開発と実証：小川秀樹（福島県林業研究センター）ら		D-19 3次元レーザを用いた倒木による微気象への影響評価：富田明花（千葉大学）ら	学会企画 2	A-19 意思決定支援技術を自治体に届ける－研究成果の橋渡しに向けた試行錯誤－：鷹尾元（森林総合研究所）ら
17:00	T5-10 野生山菜の利用による内部および外部被ばく線量の推定：渡邊未来（国立環境研究所）ら		D-20 3次元点群によるスギ根曲がり形状の評価：平岡裕一郎（静岡県立農林環境専門職大学）ら	国際交流会	A-20 森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の課題と展望－栃木県の事例より－：山本美穂（宇都宮大学）ら
17:15	T5-11 福島県双葉郡の自然環境に対する住民の意向：藤野正也（福島大学）ら		D-21 ドローンレーザを用いた機械学習による森林内ササ分布の把握：菊地未宙（千葉大学大学院）ら		A-21 森林管理業務の担当者が持つ知識に対する認識：石崎涼子（森林総合研究所）ら
17:30	討論・調整		討論・調整		A-22 北海道十勝川流域における造林補助金の選択と活用：尾分達也（北海道大学）ら
17:45					討論・調整
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					